

第4回秦野市総合計画審議会 会議記録

| | | |
|--------|---|---|
| 1 開催日時 | 令和7年11月17日(月)午後1時30分から3時20分まで | |
| 2 開催場所 | 秦野市役所本庁舎4階議会第1会議室 | |
| 3 出席者 | 委員 | 小林会長、坂野副会長、石井委員、薄井委員、海平委員、小野委員、北村委員、小泉委員、斎藤(政)委員、柴田委員、高橋委員、田村委員、中谷委員、松崎委員、宮川委員 池田委員(欠席)、斎藤(初)委員(欠席)、竹内委員(欠席)、宮永委員(欠席)、山崎委員(欠席) |
| | 市 | 石原副市長、高橋副市長、教育長、政策部長、総務部長、税務担当部長、くらし安心部長、文化スポーツ部長、福祉部長、こども健康部長、環境産業部長、はだの魅力づくり担当部長、都市部長、建設部長、上下水道局長、教育部長、消防長、総合政策課長、総合政策課担当課長、行政経営課長、財政課長、総合政策課課長代理(総合政策担当)、行政経営課課長代理(行政経営担当)、行政経営課課長代理(公共施設マネジメント担当)、財政課課長代理(財政担当)、総合政策課主査 |
| 4 議題 | <p>1 秦野市総合計画はだの2030プラン後期基本計画案について</p> <p>(1) 第4編 住みたくなる訪れたくなるにぎわい・活力あるまちづくり【にぎわい・活力】</p> <p>(2) 第5編 市民と行政が共に力を合わせて創るまちづくり【市民と行政のパートナーシップ】</p> <p>(3) 地域まちづくり計画</p> <p>(4) リーディングプロジェクト</p> <p>2 その他</p> | |
| 5 配付資料 | <p>次第</p> <p>資料1 秦野市総合計画はだの2030プラン後期基本計画案</p> <p>資料2 秦野市総合計画はだの2030プラン後期基本計画リーディングプロジェクト</p> | |

| | |
|---------|---|
| | <p>◆開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の確認 ・出席委員数（15名／20名）及び会議成立の報告 <p>◆議事(1) 第4編 住みたくなる訪れたくなるにぎわい・活力あるまちづくり【にぎわい・活力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から議事(1)～(4)に係る説明(資料1及び資料2) (主な質疑等) |
| 斎藤（政）委員 | <p>問：第4編にも第5編にも関係あると思うが、新東名高速道路の全線開通が大幅に遅れるという表現がいいのかよく分からないが、新聞を読む限り、はっきりとした表現では開通日程が出ていなかったため、それに伴ってこの総合計画にどのように影響するのかということ、分かる範囲で教えていただければと思う。</p> |
| 事務局 | <p>答：11月4日に新東名高速道路の全線開通が遅れるということで、発表があった。その中では具体的にいつ開通するということは示されておらず、早くても1年以上遅れるという表現であったので、その部分については、まだ事務局でも整理はついていないが、適切な表現にして、皆さんが分かるように表現を工夫したいと考えている。</p> |
| 斎藤（政）委員 | <p>問：総合計画の中に、何か大きく影響するようなことは起きてくるのか。</p> |
| 事務局 | <p>答：今の記載だと、例えば序論において、令和9年度に全線開通が見込まれる趣旨の表現があるが、それはもう適切でないので、そこは具体的な年度の明示ができないというところで、「今後開通が見込まれる」など、抽象的な表現になるかもしれないが、工夫していきたいと考えている。</p> |
| 小野委員 | <p>問：基本施策452「住宅施策の充実」のところで、成果指標が移住世帯数の方に記載があるが、素朴な疑問で、この施策というのは移住対象者だけを成果指標で見るとすると、移住対象だけが見えてきてしまうので、いわゆる既存の住民などに対する施策も含まれているのかどうか。もしそれであれば、何か指標の中にそういったものもあった方がいいのではないかというのが疑問として一点ある。</p> <p>もう一点は、基本施策441「意欲の持てる商業経営への支援の充実」の中で、成果指標でお尋ねしたいが、ここでは域内消費の拡大というところを目指されていると思う。OMOTANコインが始まって私も活用させていただいて注目している。加盟店舗数がおそらく第1弾よりも第2弾の方が増えていると利用者としても感じているところあるが、そもそも域内消費が直接この数値で把握できるのかということがあるところがある。</p> |

その消費額とか、もう少し直接的な指標があってもいいのかなというところもあるので、その点を教えていただければと思う。

都 市 部 長

答：私の方から、先ほどの移住世帯数の件について説明させていただく。今回、この移住世帯数、令和6年度で157と載せているが、この数値については、今年度から名称が変わった「はだのOMOTANライフ応援事業」やミライエ秦野、これらを使って市外から移転していただいた方、それと、空き家バンクを利用して市外から転入された方などを対象に世帯数を出している。そこで、当然「はだのOMOTANライフ応援事業」も市内の方が家を新たに建てるといったところも助成しているが、市外から来ていただく方には少し手厚くしているような状況がある。そのため、市内の方も転出されないようにといったところも、いろいろ考えながら、こういったところの指標を今、設定しているような状況である。

はだの魅力づくり
担 当 部 長

答：125ページの成果・活動量のところだが、地域内の消費の拡大ということで、OMOTANコインの加盟店舗数を掲載している。御承知のとおり、OMOTANコインは地域で消費するお金になるので、まずは加盟店舗数を指標として設定した。利用者数などを指標にするという考え方もあるが、ここではOMOTANコインの加盟店舗数の上昇を見込んでいきたいと考えている。もちろん加盟店も様々な業種があるので、こういった業種を広げていくことも必要であるし、同じ業種内の店舗数を広げていくことも大事だと思う。これを広げていくことで、市外に出ない、市内の地域消費を向上していこうというのが一つの目的である。

それとは別に、資料2の12ページの方では、小田急線4駅周辺にぎわい創造プロジェクトの定量的KGIということで、「年間商品販売額（小売業）」ということで指標を上げている。リーディングプロジェクトの方での指標ということで管理をしていきたいと思っている。

◆議事(2) 第5編 市民と行政が共に力を合わせて創るまちづくり【市民と行政のパートナーシップ】

(3) 地域まちづくり計画

(主な質疑等)

田 村 委 員

意見：134ページのところで、これまで自治会という文言があまり出てきていないのが心配だったが、ここで出ている。135ページの主な取組みの中に「自治会等への支援」ということで、自治会運営を支援するとか、そういう形になっているが、これは自治体が存在しているという前提だと思う。自治会があるからその運営を支援するということになっていると思うので、前回、宮川委員もおっしゃったが、自治会の加入

率が下がっているということで、下手をすると存続が難しい自治会も出てくる。こういうところに対して取り組むことが必要ではないかと思う。

元へ戻って申し訳ないが、28ページ、「互いに尊重し共に支え合う地域づくりの推進」、これは地域共生社会の推進ということである。ここで民生委員についていろいろ書いていただいてありがたいが、その担い手の一つとして、自治会というのには欠かせないと思う。この自治会についての、何か取組みと言うか、先に言った、自治会を活性化するための取組みというのを是非、今回の計画の中に入れていただきたいと思う。それに関しては、91ページ、これは防災の話になるが、ここでも「地域防災体制の整備・強化」と書かれている。この地域の防災についてもやはり自主防災会という言葉が必要になってくるし、自主防災会ということは結局自治会ということであり、このところを是非、今からで申し訳ないと思うが、取組みの記述が欲しいなと思う。

くらし安心部長

まず、自治会の加入率が減少しているというお話をいただいた。これは全国的な課題であり、当然秦野市においても同様に厳しい状況にある。こうした中で、具体的な解決策という特効薬というのは正直ないが、ただ、市も手をこまねいているというわけではなくて、市から自治会へ依頼している事項の見直しなど、そういうことで取り組んでいる。具体的には、市から依頼している委員の見直しや、回覧物を月2回から1回に削減している。また、防犯灯のLED化による長寿命化の調査報告書、これは自治会の方にとってはかなり負担だというお声もいただいたので、廃止にした。その他には、自治会交付金と廃棄物の交付金について、これもそれぞれあると大変だというお声もいただいたので、一本化している。こういった自治会に対する負担軽減に関することはやっているつもりだが、まだまだ足りない部分もあると思う。そういった意味で、自治会に対する負担軽減も含めて、今後も進めていきたいと考えている。

また、自主防災会についてであるが、自治会イコール自主防災会だと皆さん思われているが、あれはあくまでも別組織で、自治会が今237、自主防災会は1自治会でも2つ3つあるところもあるため、235の自主防災会だと思うが、そういった自主防災会に対しては、活動ができるように、市の方も、特に今年度は能登半島地震が起きてから、自主防災会に対する補助金の額を例年になく増やして補助しているというところで、自主防災会の方からも多くの補助の申請が来ている状況にあるので、自主防災会に対しては、市も補助金だけではなく、講習会であったり、そういったことも含めて今後も支援をしていきたいと考えている。

田 村 委 員

色々支援をいただいているのはよく分かるが、その中に、自治会をどうやって存続させていくかという取組みがないというのが、私が一番懸

念するところである。そのところについて何か、難しいというのは分かるが、結局今、自主防災会についても、自治会と独立してやっているところもいくつかあるとは思うが、ほとんどは自治会とイコールという状況だと思う。そして、反対に自治会が活性化しているところは、いろいろ自主防災会の取組み、防災講習会をやるなど、そういう活性化もあると思う。結局、ベースはやはり自治会で、そこをもう少し何とかしたいというのが一番の気持ちである。

くらし安心部長

委員が懸念されている自治会の存続と、今後何十年後の存続が危ういのではないかとのことなので、それは今日、宮川委員（自治会連合会会長）がいらっしゃるので、月1回行う会合の中で、そういった、まずは自治連のご意見や地元の実態等をお伺いして、存続できるようやっていきたいと思う。

宮川委員

意見：今、自治会連合会の中でも、あとこの3年、5年後の自治会のあり方について、月1回の定例会などでいろいろ検討している。この前の市民ふれあい祭りでは、自治会のことを知っていただくということで、自治会コーナーを設けさせていただいた。何人かの方にアンケートをいただき、今、市民活動支援課の担当職員が、この前のアンケートを集約して、今週の自治連の役員会には結果が出てくると思う。それを受けて、私たちもどのようにしていった方がいいかということを考えている。

また、自治会で最も遅れているのは防災である。自治会と自主防災とは違う。自主防災は全ての人、自治会に入っていない人も入っている。鶴巻地区は今自治会加入率が52、3%である。また、大根地区は50%を割っている。例えば、災害があった時にどのように手助けをしたらいいかということで、また防災課の担当にはご相談に伺うので、その時はよろしく願いたい。

坂野副会長

意見：今のお話は本当にもっともな話だと私も感じており、やはり地域の地縁がどんどん弱体化していくという傾向は、おそらく秦野だけではなくて日本全国いろいろ深刻に抱えていると思う。実はコミュニティに対する考え方というのは二つあると言われており、一つは地縁型の組織と、もう一つはテーマ型の組織というのがあって、計画案には、テーマ型のほうが主に書かれているということがあるので、一般的にはその地縁型の組織が衰退していくところを、テーマ型の組織というものがトレンドに乗かって支援していくことで、それをベースに地縁型組織の強化を図ろうと考えられており、それもなかなかうまくいっていないが、言いたかったことは、この今後の方向性のところに、テーマ型の、要は両者の連携を深めて、地縁型の組織の強化を図るみたいなことを入れて

おくといいと思う。具体的に政策として何をするかという話までは、おそらく今の段階でなかなか書けないのかもしれないが、方針としてはそういうことを加えたらどうかと思った。

小林 会長

とても良い御提案だと思う。私ごとで恐縮だが、新宿区の町内会と自治会の条例を作る委員会があり、その委員会の副会長をさせていただいていたが、やはり新宿区でも50%をちょっと超えるぐらいの自治会の加入率になっており、特に問題なのは、今、坂野委員がおっしゃった、テーマ型と地縁型のコミュニティの方で、特に地縁型のコミュニティが、独身のお年寄りでマンションに1人でお住まいという方がものすごく多くなってきて、地域の存続、地縁型のコミュニティの存続がもう危ぶまれる状態になってきているということである。そこで新しくマンションを建てた時に、自治会との調整を必ず行うというような手続きと、それからテーマ型の企業ですとか大学とか、そうした地元の組織活動をしている団体にも協力関係を位置付けるというような、そうした条例に取り組んだことがある。急にそこまで進むというのは大変なことだが、今、坂野委員のおっしゃっていたような方針を検討していくというのは重要なことかとお話を伺っていた。なかなか難しい問題だと思う。特に高齢化によって、今まで支えてきてくださった方たちがその支える存在からずれてきて、今何とかやってくれる人たちが50代であろうか、50代、40代の方がなんとか参加して下さるぐらいの感じなので、本当に難しい問題だと思うが、組織的な活動をなさっている方たちにも、自治会との関係を深めていただくというようなことは、とても大事なのだなとお話を伺っていて感じた。

田村 委員

おっしゃった地縁型とテーマ型というのを具体的に、もう少し説明していただけるか。

坂野 副会長

テーマ型というのは、例えば防災は典型的なテーマ型だと思うが、実際はそのテーマ型の防災ということ、地縁組織が担っているという実態があるという御説明だったと思う。しかし、防災というテーマであるとする、おそらく、地縁型の組織ということに関わりなしに、やはり明日は我が身というものがきっとあるので、それをテーマにすると、地縁組織とは別な形での集まりというものができる可能性はなくはない。

また、同じように子育ての問題を考えた時に、子育ての支援組織というのは、いろいろな相談会を含めてある。そうすると子育てをテーマにした、コミュニティのような、あるいは健康相談のようなことで考えると、今、通いの場と言って、いろいろな集まれる場所に公衆衛生系の啓発事業などをやるという集まりがあったりするので、そういう様々なテ

一まごとの集まりというのは、自治会支援としてやっているわけではないが、自治体としてはそういう集まりを通じて行政サービスを提供していこうというようなことをやっていच्छるので、そこと何かうまく、自治会という組織を、どういう形で結びつけていくかというのは難しいが、ただ一方でそういう動きがあつて、全然結びついてないということ自体がもったいないということが、一般的には言われているということである。

小 林 会 長

自主防災組織も企業や大学、うちの大学も自主防災会を持っているが、例えば被災した時に、大学がそうした自主防災会と周辺の自治会との連携を取っていると、避難場所や食料の関係、備蓄の問題とか、そうしたもので協力関係を築いていくということで、地域の衰えた力を支援していこうと。そのため、例えば企業の協力というのは非常に重要なテーマだと思う。新宿区のケースは特にその辺り、大学や企業、学校の連携を強くしていくというようなことをかなり熱心にやった記憶がある。新宿区の問題のもう一つは、マンションの供給があるため、そこは特殊なケースだと思うが、簡単には進まない問題だと思う。ただ、そうした方針を持って検討を進めていくというのはとても重要な御指摘だと思った。福祉の分野でもおそらく、なかなか地域包括センターと地域の自治会の連携が取れていないとか、そうした問題がたくさんあるのではないかとと思うので、ぜひその辺りは検討していく必要があるかと思った。

宮 川 委 員

意見：153ページに、「広域連携・協力体制の推進」と書いてある。この件について、どちらかという鶴巻地区の要望になってしまうかもしれないが、聞いていただきたい。実は、鶴巻地区ではないが、伊勢原市の串橋地区に小田急電鉄の電車基地ができる。また、そこに無人駅を作るという新聞記事が出ていた。大山からのバスが、そこにできる無人駅で運行すると、鶴巻が地盤沈下をしてしまうということが一つと、あともう一つは、例えば鶴巻地区に災害があった時に、国道246号線があるが、そこから来るのが県道612号だけである。この他に東名高速道路の側道があるが、御存知のように、この側道は山坂があつて何かあつた時にはとても使えない。そういう意味で、是非、協力の推進ということで、この中に入れていただかなくても結構だが、そのような推進してもらいたいということで、担当課の方には是非お願いしたいと思う。

政 策 部 長

車両基地ができると、鶴巻地区から伊勢原の方に向かっていく交通が不便になるということだと思うが、実際そのような施設ができるようになれば、交通の円滑化が図れなくなると思う。ただ、地区別市政懇談会の際に少しお話をさせていただいたが、鶴巻から外れた畑の中に、下か

ら平塚、秦野を通過、伊勢原まで行く大きな都市計画道路が入っていて、それが開通できれば、大きな交通の軸ができるということで対応できると思う。ただ、その都市計画道路には相当時間がかかるので、今後、関連する平塚市や伊勢原市と、その都市計画道路をどのように今後進めていくかというところは、しっかり協議をしていくという考えでいるので、御理解いただきたい。

◆議事(4) リーディングプロジェクト

(主な質疑等)

坂野副会長

意見：今日初めて見せていただいた資料なので、印象だけになってしまうかもしれないが、以前からずっとお話ししてきた幸福度指標などを含めて、指標をどのように設定していくかということ、とてもよく作られたなという印象がまず第一番目である。その上で気になることがいくつかあり、一つは、これも今更ということなのかもしれないが、プロジェクトと施策大綱別計画の方の関連で言うと、今回色付けで赤や緑でどれに関わっているかというのを示していただいたので、これもとても分かりやすくなったと思う。お聞きしたいことの一つは、前期計画の作りを見ていると、施策大綱別計画の方は三桁の番号で体系が示されており、おそらくリーディングプロジェクトの方も、その三桁の施策体系番号にプロジェクトが対応していたような記憶がなんとなくあるが、今回もそうなのかどうかということ、今回もそうだとすると、ここに入れるのか、参考資料がよいか分からないが、何かそういう対応が分かるような形で示されていると、どのプロジェクトとどの施策が対応しているというのが分かりやすくなっていいのではないかと感じている。

もう一つは、これまでもそうだったと思うが、実は、リーディングプロジェクトでない方は、そういう指標の体系を持っていないので、活動指標に書かれている指標の内容がどのレベルのものなのかということについて必ずしも統一は取れていないと思う。そこで、今回、私も試しに幸福度指標のどれが当てはまるかというのをシュミレーションしてみたが、大体似たようなことになっているので、やってみて気が付いたことの一つは、リーディングプロジェクトというのは複数の分野にまたがるプロジェクトから構成されているので、実は対応しているそのKGIに当たる部分というのが複数の分野に渡っている。それを見ると、実は分野ごとの、大まかなウェルビーイングというのは、今ここのリーディングプロジェクトで設定していただいたものを持ってくるとそれぞれになるので、先ほど出た域内消費率の話というのは、実は商業のところを持っていってしまえば、そこでの最終ゴールになるということが掲示できるので、総合計画の中に明示するかどうかは別として、少なくとも資料編かどこかのところで、総合計画の全体をウェルビーイング指標で見る

とこんな指標が対応していますよということを見せられると、この施策をやる時はどういうところを達成しようとしているのかということが見えるのでよいと考えられる。そう考えると、リーディングプロジェクトでない方の活動指標は何を示しているのかというと、その分野の中で中心的にやろうとしている事業の進捗率を評価するための指標という風に、おそらくほとんどそうになっていると思うので、そういう性格のものを入れていきますよということで整理をした方がよいのではないのかなというのが印象である。

二点目は、プロジェクトの4、5を考えると、これは地域幸福度指標の方だとカバーできないので、実際今回もご提示していただいたのは、地域幸福度指標以外のところの統計データを持ってこられているので、こういうところも、実は、RESAS（リーサス）という、かなり便利な統計のツールがあるので、今回どこまでできるか分からないが、RESASのデータとリンクさせるということで、おそらくプロジェクト4、5、特に商業とか産業の分野、先ほどの域内消費とか、域内・域外収支とか、そういうデータのデータを全部見られるので、そういうところがあると、市全体の方向がどういう状況にあって、どこに向かっているのかというのが分かりやすくなる。これも時間との問題であるが、理想的にはどこかそういう情報があると分かりやすいのではないかなと考えた。

三点目は、これも先ほどから議論が出ているが、リーディングプロジェクトの意味というのが、各分野にまたがっているということであるが、なんとなく見ていると、これも申し訳ないが、関係ありそうなものプロジェクトをただリストアップしてまとめてパッケージングしているだけという印象がどうしてもあるので、本当は違った分野にまたがっているプロジェクトを合わせることで、どういう相乗作用があるのかみたいなことが意識されると望ましいだろうという気がしており、先ほどの、例えばコミュニティの活性化という観点から見た時には、それこそ福祉も教育もみんな関わった、いろいろなやり方の組み合わせ方のパッケージでシナジーが生まれますというシナリオが考えられるのだと思う。しかし、そういうストーリーは、このリーディングプロジェクトの中からはなかなか読み取りにくいという気がするので、希望としては、計画はここまで出来ているので、これ以上どうこうしてほしいということはないが、運用に当たっては、何かそういう相乗作用をどのように出すかということを是非意識して運用していただきたいと思っている。

事務局

まず一点目、前期計画のプロジェクトの作りの関係であるが、今、基本施策の三桁の数字が入っていたのではないかなというところでは、前期計画で数字は示しておらず、主な取組みというのは掲載しているが、それと同じような形で載せていく感じになると思っている。その

取組みを載せたまとめとして、先ほどの成果指標、そういったものを、分かりやすい作りで掲載していくような方向で考えている。

それから、プロジェクトの4つ目、5つ目のRESASなどのデータ、そういったものの活用というところでは、御指摘の通り、当然そのプロジェクトが何のためにやっていくのか、そして、そこで得られる効果、成果が何なのか、そういったものが関連付けられなければ当然見る人に分からないし、市民にも市がどういう取組みを進めていくのかというものが見えないので、そこはやはりKGI、KPI、そういったものの関連性をしっかりと整理した中で、適切な指標というものを引き続き整理していきたいと思っている。現時点では間に合わせで作ったようなところもあるので、今後の策定作業の中で、しっかりと庁内連携を取って、また外部からの意見もいただくので、そういったところを反映していきたいと思っている。

そして、リストアップしているだけの印象があるというような御指摘については、見せ方の部分もあると思っている。例えばプロジェクト2の「女性と子どもが住みやすいまちづくり」、子育て・教育という風になっているが、そこには男女共同参画などの取組みも入ってくるし、女性の就労といったところも入ってくるので、第4編とか第5編の取組みも入ってくるというところで、それが全庁的に、庁内横断的にというところをまとめた形になるので、そこは見せ方も含めてしっかりと整理していきたいと思っている。

坂野副会長

今の段階でどのような議論ができるのかと考えているが、一つだけ、RESASは、データ入手のコストが低く、しかも経済的なインパクトなどを測るのが楽なので、KGIなどを作る時に利用していただけたらいいと思っている。

小林会長

RESASについては、実は内閣府で、そうした国や自治体の統計データ、それから世の中にあるビッグデータを使って、地域の経済活動量や、人口動態の推計値などの詳細なデータをネット上で分析できるようなシステムを作っていた。これには私も当初関わっていたので、内情を申し上げると、石破前総理が地方創生の担当大臣をされているときに、政治決定をした後、行政の執行がどのくらい数値化されて決定できているのか、それから、まちづくりの進捗状況を全体として把握したいという目標があって、それに基づいてRESASの他、現在はあと三つぐらいのサイトが出来上がっているが、データを中心に行政をしっかりと把握していこうというような、そうした方針に基づいて出来上がってきたのが、こうした統計的な指標であり、また、KGIやKPIというしっかりと数値指標の中で行政の進捗状況を把握しようということであっ

た。

データを使う際には、私もいつも困ってしまうことが多く、行政の職員としても仕方がないと思うが、こうした指標は、総合計画や、その下の実施計画、それから予算といった現実の数値に響いてくるものであるから、ひとたび数値を設定してしまうと、行政はそれに囚われなければならない、拘束されなければならないので、かえってうまくいってない施策が、いつまでも残ってしまうというマイナスの効果もあるということを忘れてはいけないといつも思っている。本来、石破大臣のときに議論したのは、政治家がそうした指標を見ていて進捗状況が思わしくないとか、あるいは実効性が低い政策を、指標を見て切るという政治判断にもきちんと使っていくということが非常に大事だということを私もよく申し上げていたが、残念なことに、地方議会の場合には、そうした能力がなかなか発揮できないという現実があって、政策をうまく廃止や撤廃できないような弱さも日本の社会の場合にはあるかなと思うので、この点は、我々委員がしっかりと実効性があるのかないのかという議論をしながら、効率的に仕事を進めていくということが必要ではないかと常々思っている。坂野委員が会長をやっておられる行財政調査会からいろいろな御要望があって、事務局は一生懸命対応されたと思うので、私としてもこの方向で進めていただいて良いと思っている。ただ、あまりこれに囚われすぎず、うまくいかないときには、行財政調査会にフィードバックしていただきながら、政策の実行の可否を皆さんと一緒に議論できるとうまく機能するのではないかと思っている。

北 村 委 員

意見：今回のリーディングプロジェクト、私が以前に発言した「働きたい」というところのエッセンスを入れていただいたということで、非常に良いものができているなという感想を持っている。ただ、計画自体が縦串はしっかり入っているというところがあるので、ここを運用の横串、これを入れて、意見の調整をしていただくようなことを入れ込んでいただだけで、運用の際に非常に回りやすくなると思う。我々の組織では、どうしても縦割りになってしまうというところをなんとかしようということで、横串を入れる工夫をやっているが、その横串を、例えば、若い方々の声を出していただいて、実現するかどうかは別にして、議論をして共有することで実現に近づいていくというような仕組みもあると思うので、そういうものをご検討いただくということも、こういったものが動き出すきっかけになるのではないかと思う。

はだの魅力づくり
担 当 部 長

今回は、リーディングプロジェクトという一番大きな部分で提示したところである。御承知のとおり、この総合計画後期基本計画の策定に当たって、個別計画として、商工業振興基本計画というものを策定してい

るところである。その中で、まさしく商業、工業、労働というところについて、我々の方で計画の中で数値なども踏まえてやっている。その他に市の中では、様々なプロジェクトの中で、例えば、女性の働く場というところでは、女性活躍の視点とか、そういったところについて横串を刺してやっている。御意見のとおり、例えば若い方の意見を取り入れるというところについては、様々な会議の場で、そういった活用をしていければと思う。

小林会長 それではここで、本日御発言いただいていない委員から御意見をいただきたいと思う。

石井委員 意見：やはり秦野の魅力をもっと掘り起こさなければいけないだろうと思うし、秦野の新しいブランドの立ち上げに携わらせていただいて、秦野らしさというか、そういう部分も勉強させていただいて、やはり秦野に住みたい、住んでみたい、それから観光地としても人が来る、来たいというのはどうしたらいいかというところだと思う。

広く考えてしまうと大変だが、私がいつも言うのは、やはり水無川に水がなければいけない。ここはやはり、秦野の特徴だろうと思う。秦野で駅を降りてすぐ川があって、すごく綺麗な水が流れていたという印象を持っている人はかなりいる。やはりそれが魅力の一つだろうと思うので、なんとか水が、いつも綺麗な水が流れている場所がそこら中にあつたらいいなど。私は井戸を掘ってほしいと思っているが、その水が水無川にどんどん流れて、魚がいっぱいいて、こどもたちが魚釣りをできるような状況ができれば、そこには当然大人も一緒に来るので、にぎわいが出るのかなと思う。それはやはり鯉じゃなくて、食べられる鮎だとかイワナだとかヤマメなどを泳がせてほしいといつも思っている。当然雨が降れば流れてしまうが、それはそれでまた綺麗な時に泳がせればいいと思う。

薄井委員 意見：この計画全体を通して、いわゆる生涯学習であるとか、あるいは文化財保護であるとか、あるいは文化財の活用、今両輪で活用ということもよく言われているが、そういうものに関する書き込みが表面に全然出てきてないような気がする。元々地味なものなので、掘っていけば出てくるが、表面には出てこない。もう少しどこかで際立たせるような表現があつたらなど、少し残念な点として思っている。それから、これは違う問題になってしまうと思うが、様々な文化財や、先ほど石井委員がおっしゃられた秦野の水などは、市民の方々、あるいは市外から訪れるの方々にとって大変に魅力のある秦野というものを表現しているわけだが、昨今、熊の問題が全国規模で言われており、神奈川県には怖い熊が

いるのではないかということも言われているようなこともある。熊に限らず、いわゆる、鳥獣被害。これも文化財的には天然記念物の範疇に入ってくるものもあるので一概には言えないが、それに関するガイドラインなどはもちろん作れないと思うが、安心安全という意味からは、何かリードとして出てくる部分があっているのではないかと思った。

海平委員

意見：リーディングプロジェクトの1の①のところ。生き生きと健康でということ、その最初の項目に、「休日夜間急患診療所等の移転・再整備」という項目がある。こちらは、こども健康部を中心に、市のいろいろなところの御協力をいただいて、おそらく来年度から着工できるようになると思う。医師会としては、当初はひっそりとした建物にしようと思っていたが、市民の安全、そして安心な暮らしに向けて、医師会、歯科医師会、薬剤師会、それと秦野在宅ケアセンターという介護系の方々が一緒に働く場所として、シンボルとしてしっかりとしたものを作りたいと思う。

小泉委員

意見：基本政策413「地域を結ぶ公共交通ネットワークの確保・維持」の成果・活動量「運行されている乗合自動車の地区数」の数値が4地区で推移されているが、高齢者が増えていく中で、その辺がもう少し増えてもいいのかなと思いつつも、やはり経営上の問題などの絡みがあつてそれほど増えていかないのと、それから別の方法としてライドシェアなどの方法を考えてらっしゃるのもあるのかと思うが、やはり高齢者の日々の生活の中で、食というのがすごく大事な部分であると思う。しかし、当然、自給自足も難しいので、やはりスーパー等を利用しながら生活をされていくことになると思う。今、ネットスーパーなどもあるが、それもままならないとなると、やはり移動スーパーのような形があったり、また乗合自動車で出かけて行って、ちょっとした買い物ができたりするなど、市民の足、バス等についてもノンステップバスを導入して、乗りやすい工夫をしましょうとか、路線の再構築とかいろいろ考えられているが、この辺が少しでも皆さんが買い物がしやすい、やはり市内の中心地に住んでいると良い部分もあるとは思うが、田舎の方に行くとそのバスに乗る人も10分20分歩いてバス停まで行かなければならないとか、そういう感じになってきているので、その辺が市民の方が日々の生活の食料や日用雑貨ぐらいは手軽に手に入れられるような工夫をこれからもお願いできたらなと思う。

柴田委員

意見：前回も申し上げたが、膨大な課題と施策がある中で、短い期間でおまとめいただいた皆様は大変な御苦労だったのではないかなと思う。それと、坂野委員からもお話があつたように、やはりこれを実行してい

く時に、親和性の高い施策の連携とか、一見これとこれはあまり親和性がないと思うものでも、原因と結果のようなどころにある事柄もあるかと思うので、是非、部課長の皆様にはそこら辺の連携のリーダーシップを取っていただいて、実行性を上げていただくとともに、効率化というところも図っていただけるといいのではないかと思います。

高橋委員

意見：このリーディングプロジェクトの意味、いわゆる基本施策を横串で実現させていくという発想は、「なるほどな」と感じているところである。なおかつ、このKGIやKPIという、指標設定については、すごく興味深いと感じている。というのも、いわゆる社会福祉というのは、なかなか図れない主観的なところもあるし、政策を打ったところでそれがどれだけ市民の幸福度を高めているのか、安心度を高めているかということがなかなか分からないところがあるが、是非この辺りについて、KGIやKPIを使って、秦野市の社会福祉はどれほど充実しているのかということ、今後も勉強していきたいというふうに感じている。

神奈川県障害者福祉協会というものがあり、県内の小中学生に福祉ふれあい作文というものをお願いしているところである。今回も教育委員会の方をお願いをして、各学校に福祉ふれあい作文を、是非お子さんたちに書いてほしいということで働きかけをしていただいた。実は私がこの福祉協会の理事をやっていたときは秦野市のお子さんがなかなか福祉ふれあい作文を書いてくれなかったというところがあった、本当にそこで手をこまねいていたということがあったが、今回、佐藤教育長にお働きかけいただいて、飛躍的に秦野市内の小中学生の福祉ふれあい作文の提出率が非常にアップした。こうした教育に関するリーダーシップをとっている方が、福祉に着目をしていただき働きかけをしていただけたところは本当にありがたいことで、これもやはり横串というか、教育と福祉が繋がっていくことになってくると改めて感じた。

中谷委員

問：地域まちづくりの計画の中で、東地区の中の、161ページであるが、主な取組みとして、ここに出ていることはどういう状況で記載されているのか教えていただきたい。というのは、主な取組み・すすめる活動というところの(2)で、「豊かな自然に囲まれたゆとりある環境を大切に、安全で安心して暮らせる持続可能なまちづくり」とあるが、うちの家庭菜園で言えば、イノシシが出た。それは1メートルぐらい大きなイノシシで、さつまいもを植えたら、全て弾き出されてしまって、また、結局イノシシが出るということは熊も出てくるのではないのかということ、不安なことがある。それで本当に安心して暮らせるのかと。やはりイノシシの次には熊。それと、ヤマビルも庭に出てきているので、そのところ、この東地区ではどういう状況の中で計画に掲げられてい

事務局

るのかということをお聞きしたかった。

答：この地域まちづくり計画の策定に当たっては、市内8地区で、地域まちづくり計画策定会議というものを立ち上げていただき、その中の議論で取りまとめていただいた。各地区で、例えば地域づくりの目標、基本目標で言えば（2）に、先ほど委員が申し上げられた「安全で安心して暮らせる持続可能なまちづくり」ということで、それを具体的に主な取組みとして何をやっていくのかというのが、項番5の（2）で書かれているということになるが、各地区でできること、自分たちでできることをやっていきながら、基本目標を目指してやっていこうというところで、これに今、項番6に点線で囲ってあるが、今後、行政として、施策大綱別計画の中で取り組む内容がこの地域まちづくり計画の中でどのように関連性を持たせることができるか位置付けをして整理をしていくというのが今後の流れになっていく。各地区でできること、それから連携して進めていくこと、そして行政が取り組むこと、このような整理の中で、この地域まちづくり計画における各地区の取組みというものが整理されるということである。

松崎委員

意見：若手というところで私たちの団体を入れていただいているところだと思うが、一つは、計画を作って終わりではないだろうなというのはすごく思っており、これをどう実行していくのかということで、私たち団体としてもそうだし、個人としても関わっていければと思っている。

また、計画に記載する必要はないと思うが、縦串横串というお話について、役所の中のお話になっている印象を持っており、もう少し広く見た時に、横串というのは、ここに暮らす市民、そして働いている人が共に関わってくることであって、それをどこまでできるかというのは本当に難しいとは思いますが、役所の中だけで終わらせないで、それを市民全体に波及していくということ、そして、それをみんなでやっていって、このまちがもっと良くなれば、良い計画になるのではないかと考えている。

◆議事2 その他

・事務局から、追加意見の提出方法等及び次回の審議会日程予定を説明。

小林会長

いつもながら貴重な御意見をたくさんいただいた。いよいよ次回は最終案が出てくるということであり、もう一度そのチェックの視点も忘れずに次回に進めていければと思う。以上で、第4回の審議会を閉会する。

15:20

◆閉会